



令和7年3月31日発行
 第16号
 岡山市教育委員会
 生涯学習課公民館振興室
 (岡山市北区幸町 10-16,
 TEL (086) 234-6015)
 公民館振興室 HP



地域と公民館でつくる出会いと学び合いの場 雄神みんなで学校ごっこ

西大寺公民館

誰もがセンセイ、誰もがセイト

西大寺公民館では、令和4年度から雄神学区で「雄神みんなで学校ごっこ」を開催しています。この学校ごっこは、誰もがセンセイになり、誰もがセイトになって学び合い、クラス（暮らす）メイトになるための楽しいイベント。兵庫県播磨町で始まり、兵庫県下に広がっているものです。公民館では地域のキーパーソンの方々から話を聞き、少人数だからこそ子どもをととても大切に考えている地域にピッタリの取組みとして、学校ごっこの実施を呼びかけました。

元幼稚園舎を会場に実施し大成功

播磨町での学校ごっこの仕掛人の方を講師に学習会を開き、コミュニティ協議会の主要メンバーで実行委員会を結成。会場は元雄神幼稚園の園舎を使うことにして、センセイを募集。3教室で3時間目までの時間割ができました。小学生がセンセイになって卓球やサッカーを教える教室が3つできました。高校生がセンセイの教室も1つ。2月の本番では、満員御礼になる教室も出て、大成功を納めることができました。アンケートや校長先生の話から、センセイを務めた小学生たちがとても自信をつけて成長したことがわかりました。



今年の開校式の様子



小学生が教えるサッカーの様子

県公民館連合会講座アワードで準グランプリを獲得し、2年目も大成功

この雄神みんなで学校ごっこは、県公民館連合会が行っている講座アワードで準グランプリに輝きました。その勢いで、2年目はコミュニティ・ハウスのふれあいの日イベントと同日開催になりました。防災や体操、珈琲の淹れ方など、新たな内容のセンセイも加わって、3教室3時間目までの時間割で行うことができました。学校ごっこの参加者は、幼稚園と近いコミュニティ・ハウスでお昼においしいうどんを食べさせてもらいました。

3年目はふれあいの日イベントと合同開催

3年目の今年度は、コミュニティ・ハウスふれあいの日イベントも元雄神幼稚園舎で実施することになり、地元の方や子どもたちが描いた絵などの作品も展示される中での開催となりました。やはり3教室3時間の時間割が出来上がり、相乗効果で多くの方にご参加いただけました。

この学校ごっこのねらいは、新しい人の地域デビューと子どもたちがやりたいことができるための組織づくりです。自分の得意なことを披露することで、地域の人や子どもたちともつながれる。子どももセンセイになることで自信をつけ、地域の担い手として育っていく、そんな場になっていくと期待しています。



今年はお琴の教室もありました

※「れんめんめん」の由来…「連綿」と途切れることなく、「面」のように広がりをもちながら、人々の営みが将来へとつながり未来を拓いていくことができるように、という願いを込めています。

※QRコードはデンソーウェーブの登録商標です。

大学生が見た！感じた！経験した！公民館

令和6年8月から9月の間に、社会教育実習やインターンシップとして、県内の大学生を受け入れました。大学生の感想を紹介します。



富山公民館 ノートルダム清心女子大学 Mさん

公民館は、人生を彩るきっかけの場になっていることを改めて実感しました。私は他の公民館活動にも関わっていて、実習を通じて地域ごとに取り組みが異なることも分かりました。富山公民館では、地域の方々が自発的に「活動を地域に還元する」という意識のもと、様々な活動に取り組まれていました。私にとって理想のあり方で「地域で団結すること」、「いくつになっても学び続ける姿勢」を学びました。公民館は子どもから大人まで様々な活動が展開され、同じ志の方もたくさん利用しており、あらためて開かれた場であることを実感しました。どの世代も生きがいを持って生きることの大切さを学ぶことができました。私も元気いっぱい、岡山を盛り上げていきます！

操山公民館 ノートルダム清心女子大学 Oさん

中高生のボランティアグループの発足に向けたミーティング、子育て中の方のための主催講座の見学、夏休み中の小学生が体験できるクラブ講座もあり、幅広い世代が気軽に交流を深める場所であると感じました。公民館を利用する理由は様々であるものの、皆がひとつになって講座を楽しんでいる姿を目にし、市民にとって公民館が大切な存在だと強く感じました。「四季のネイチャーゲーム」に参加した際、外で思いっきり自然に触れることで、地域の自然や生き物を知るだけでなく、親子のつながり、地域の人々とのつながり、そして地域づくりの活性化にもつながる活動だと思いました。地域の人々のつながりを絶やさないうために、公民館というコミュニティが重要だと思いました。

吉備公民館 ノートルダム清心女子大学 Iさん

講座に参加されている方々はとても積極的で、さまざまなことを学びたいという思いで公民館へ来られます。その姿はとても真剣で、学びに年齢は関係ない、いつからでも始められるのだと気づかされました。参加されている皆さんが「講座に参加するのが楽しみ」「人とのつながりが増えて、生活が豊かになったように感じる」「英会話講座のために日頃から学んだり行動したりするようになった」と言われていました。講座には中学生のボランティアを交えて話し合う活動もありましたが、年配の方々から直接話を伺うことは新鮮で、公民館という場所は生涯学習を促すだけでなく、生活を豊かにし、人をつなぐ交流の場でもあるのだと学びました。

御南西公民館 ノートルダム清心女子大学 Mさん

特に印象的だったのは、公民館が単にイベントや講座を提供する場ではなく、そこで人々が自然につながり、学びを深め合う場であるという点です。ある親子向け講座でお会いした方に顔を覚えてもらい、別の日にも声をかけてもらった時には、短期間でもつながりが生まれることを実感しました。参加者同士が育児の悩みや知識を自然に共有する場面が多く見られ、講座を支えるボランティアの中には、かつては参加者だった方もおり、公民館での学びが「学び手」と「教え手」の一方向にとどまらず、循環していることに気づきました。公民館は地域の中で学びとつながりを生む貴重な場であり、大きな魅力の一つであると思います。

岡輝公民館 ノートルダム清心女子大学 Mさん

実習では、地域課題と向き合う市民の方や職員からお話を伺う機会も多く、様々なメッセージを受け取ることができました。「自分がいなくても活動が継続していくよう、住民の自主性を育てることが重要だ」という職員さんの話が心に残っています。社会教育士は住民同士、地域同士をつなぐことで課題解決を目指す存在であると認識していましたが、実際に地域活動の現場を覗いていく中で、住民自身に力がなければ、根本的な課題解決は目指せないと気づかされました。これから社会に出て社会教育に携わる際には、今回学んだことを活かし、地域の方々の力を信じて向き合い続けていこうと思います。

北公民館

岡山県立大学 Kさん

公民館はあらゆる用途で使われる施設のイメージでしたが実際には子ども食堂や子ども会の集まりぐらいしか使ったことがなく、多機能と実感したことはありませんでした。公民館が子どもと親が遊びに来る場であったり、学生が自習しに来る場であったり、高齢者向けの講座が開かれる場であったり、地域の人たちにとってあらゆる用途で使われていることを実感しました。日頃、チラシで講座の募集を見ていて、人数は本当に集まるのか疑問でしたが、「介護予防教室」では25人という想定以上の方々の参加があり驚きました。ほぼ毎月参加されている方々が多く、自分で思っている以上にそういった講座や教室が地域の人たちにとって親しまれているのだとわかる貴重な経験でした。

南公民館

就実大学 Kさん

講座の見学や参加者との懇談の時間なども設けていただき、私にとって非常に貴重な経験となりました。持続可能な地域づくりに向けてどのような取り組みをすればいいのかを常に考え、行動している職員の方々が特に印象的でした。公民館のミッションは「共生のまちづくりの拠点となること」であり、館長さんからは、「そのためにはESDの取り組みが大事で、単発の行事だけでなく、長期的なビジョンを立てて、地域の人たちや行政、利害関係者が一緒に考えてゴールを目指すこと」と教えていただきました。私は子どもの貧困について関心があったため、子ども食堂の方に、始めたきっかけや公民館との関わりなどを教えていただき、同時に、知識でしか知らなかった問題を現実として実感することができました。まずは地域住民の“いま”を知っていくことが重要であると感じました。



瀬戸公民館

ノートルダム清心女子大学 Iさん

実習を通じて、私は多くのことを学び、公民館の存在意義について深く理解することができました。公民館は地域の人々が集まり、共に学びを深めるための重要な場所であるだけでなく、そこを中心に多くの縁が広がっている場でもあります。地域の方々が公民館に集うことで顔を合わせ、交流を深め、新しい縁が生まれる場面を間近で体感し、公民館が地域社会において果たしている役割の大きさを実感しました。これらの経験を通じて、公民館の活動にさらに積極的に参加し、学んだことを生活に活かして、今後の成長につなげていきたいです。

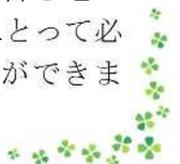
旭公民館

ノートルダム清心女子大学 Iさん

インターンシップを通して、公民館がいかに社会問題解決に取り組んでいるか感じることができました。特に、コミュニティの希薄化に対する対策は素晴らしいものでした。高齢者人口が増えた今、高齢者同士も支え合うことが大切ですが、なかなか関わる機会というものはないように思います。しかし、公民館を訪れば、主催事業やクラブなどで高齢者同士や年齢の垣根を越えた交流も可能となります。また、職員の皆さんは来館者増加にはどうすればいいか、若者の社会参画促進の取り組みとして最適なものはなにか、常に考え行動されていました。できていないことだけに目を向けるのではなく、できていることをもっと伸ばすこと、課題解決は多角的な視点が不可欠であることを学びました。

就実大学 Mさん

旭公民館では、利用者に向けたあいさつ、日常生活に関する対話といった、日々の関係づくりが行われていました。小さなことではあるものの、利用者の居場所・地域づくりの拠点となるようなより良い公民館づくりが行われていました。その公民館づくりがより感じられた出来事として、諸事情により終了となったクラブの方が職員さんに対し、これまでの感謝の言葉を述べられていたことが挙げられます。場所を貸すだけの関係では、感謝の言葉を述べるまでには至らないと思います。目新しい設備も利用者数増進の為には必要ですが、まず継続して通ってもらわなければ意味がありません。実習を通して、通いやすい公民館づくりは、公民館にとって必要不可欠な要素であると再確認することができました。



ともに学び 交流深めた 公民館大会 世代を超えて多様な人たちが参加

令和6年度岡山市立公民館大会を「ともにつこう これからの地域・社会」をテーマに2日間にわけて開催し、のべ276人が参加しました。

12月15日に岡輝公民館で「防災・減災」「地域づくり支援」「若者の地域参画」「地域福祉・共生」の4つのセッションに分かれて実践発表やワークショップを開催しました。中学生、高校生、大学生、外国人市民、市民グループ、地域団体など世代を超えて多様な人たちの参加があり、お互いの活動から学びあい、交流を深めました。

1月19日には、東京大学教授の牧野篤さんを講師に迎えた基調講演

と、パネルディスカッションを開催しました。基調講演では「ちいさなしあわせを重ねあわせる～地域コミュニティをつくる公民館～」



基調講演の様子

と題して、今の時代に問われている社会教育・公民館の役割についての提起がありました。

パネルディスカッションでは、12月に開催した4つのセッションに参加された方が登壇し、公民館の魅力や今後の公民館活動の展望を語りあいました。

参加者からは、「充実した時間を過ごしました。参考になることばかりでした」「公民館活動に関わる市民の頑張る姿に共感し、自分事として関わることの大切さを学びました」「時代の変化に応じた社会教育の大切さを改めて確認しました」などの感想が寄せられました。

公民館大会での学びやつながりを今後の活動に活かしていきます。



パネルディスカッションの様子

学校と地域をつなぎ若者が活躍 する地域づくりの活動が評価され 高島公民館が優秀館に

この度、高島公民館が文部科学省の「第77回優良公民館表彰」で優秀館（今年度は全国で5館）に選ばれました。こ



懸垂幕を掲示した記念セレモニー

れを記念し、2月8日の高島公民館文化祭において記念セレモニーを開催し、優秀館選定を祝う懸垂幕を掲示しました。

高島公民館では、地域づくりと学びの拠点として、若者をはじめとする新たな人々を巻き込みながら、仲間づくりを推進しています。子どもを核としたまちづくりを進めるため、教員・保護者・地域住民・小中高生などが参加する「地域協働学校研修会」を開催し、めざす子ども像を共有す

るとともに、熟議を通じて協働の機運を高めています。

防災士やPTA役員を中心に「高島・旭竜防災教育グループ(TKB)」を立ち上げ、小学校の授業に出前講座を実施するほか、授業と連動させた体験型講座「高島防災クエスト大作戦」を開催するなど、地域課題の解決や地域の活性化に向けて、住民が主体的に企画・運営を行っています。

また、岡山市立公民館の基本方針における重点取組である「若者が未来をつくる」活動の具体化を図るため、「中高生ボランティア高島地域づくり隊」を地域の大人スタッフとともに立ち上げました。隊員は地域でのボランティア活動にとどまらず、「地域づくり隊全員で高島の人を笑顔にする」をスローガンに掲げた自主イベントの企画・運営に取り組んでいます。

この度の受賞を励みとし、今後も持続可能な社会づくりに貢献する公民館活動をすすめていきます。